土浦発

未来への伝承 ⑩③

器台 ―つぼを乗せる台―

土器には、煮炊き用の甕、貯蔵用の壺、食器用の椀、杯、高杯など、多くの種類があります。この他にまつりの道具として、壺を乗せて使う器台とよばれる土器があります。器台は縄文時代にも見られますが、弥生時代から古墳時代の初めにかけて、全国的に普及しました。

器台と壺（神明遺跡・北西原遺跡出土）

今回は、土浦市周辺の集落跡で発見される、古墳時代の器台について紹介します。

古墳時代は、3世紀の終わり頃から7世紀にかけての、古墳が造られた時代です。器台は、古墳時代の初め頃に使われました。形は高杯に似ており、円錐形やラッパのように開く脚の上に、受け皿が付けられます。受け皿の中心部には、直径1㎝ほどの孔が開けられ、そこが高杯と違うところです。表面は、赤く塗られているものが多くみられます。

器台には、写真右のように小型の壺が乗せられました。この壺は丸い底で、細かく表面を磨くなど丁寧に作られており、器台と同様、赤く塗られたものが多くみられます。この壺は飲食に使われたと思われますが、大きさや形から推測すると、酒を入れたのかもしれません。器台と小型の壺は、非日常的な道具として、まつりや儀式に使われたと考えられています。また、このセットは、古墳にも供えられました。

器台に開けられた孔

器台には、いくつかの形があります。この地域に多い形は、円錐形の脚と小さな受け皿ですが、脚が大きく広がるものや、脚と受け皿がXの形のもの、変わった形としては、写真左の器台のように、脚と受け皿の境に鍔のある、やや大きめの器台があります。この器台は、受け皿に円形や楕円形の穴が開けられています。このような特徴は北陸地方にみられ、移住者のように、その地域に関係する人によって作られたと考えられます。X字の器台は、畿内に多くみられる形です。このように、他の地域の特徴をもつ土器が土浦市周辺で発見されるということは、古墳時代の初め頃、広い範囲で人の動きが活発であったことを物語っています。

このような器台は、4世紀の終わり頃になると作られなくなりました。それは、まつりの変化や、古墳に供える器台が、須恵器に変わったためと思われます。

今回紹介した器台は、9月2日㈰まで上高津貝塚ふるさと歴史の広場で展示します。ぜひご覧ください。

問 上高津貝塚ふるさと歴史の広場（☎826-7111）

〝気分は縄文人〟本格的な縄文土器づくりを体験する講座です。

とき・内容／
◉9月15日㈯　午前10時～午後3時…粘土づくり
◉10月13日㈯　午前10時～午後3時…土器の形づくり
◉10月14日㈰　午前10時～午後3時…土器の模様入れ
◉11月17日㈯　午前9時～正午…土器焼き（雨天の場合は順延）

ところ／上高津貝塚ふるさと歴史の広場　考古資料館

講　師／上高津貝塚土器づくりの会

定　員／20人（先着順）
※4回参加できる方に限ります。小学4年生以下は保護者同伴

申込方法／電話または直接
※昼食を持参してください。

申問 上高津貝塚ふるさと歴史の広場（☎826-7111）